



## 韓国でお花見

凍てつく冬が去り、心地よい風と共に訪れる春の風景は、私たちを外の世界へと誘います。特にこの春は約2年半ぶりにマスク着用義務が解除されたこともあり、人々の気持ちもより一層軽くなることでしょう。

さて、日本の春といえば桜ですが、韓国でも名所がいくつかあります。ソウル市内にも桜の名所はありますが、毎年ただ通り過ぎるだけでも一苦労なほど混雑します。そこで、今回は韓国人にもあまり知られていない桜を求め、遠出することにしました。

ソウルからおよそ250km離れた朝鮮半島の南東部、慶尚南道(キョンサンナムド)という行政区に位置する咸陽郡栢田面(ハミョン郡ペクジョン面)が今回の目的地です。ソウルから韓国特許庁のある大田まで車で約2時間。そこからさらに1時間半ほど南下すると到着です。ここでは毎年4月の2日間にわたり桜祭りが開催されます。この祭りの目玉は、自然生態保全地域に指定されている白雲山(標高1,279m)の山裾から延びる、片道一車線道路の両脇に植えられた約1万2千本の桜

で、満開時にはそれは見事な桜のトンネルを楽しむことができます。道路の脇にはのどかな田園風景が広がっています。桜並木は総距離約20kmもあるので、車をゆっくり走らせながら車窓から楽しむのもよし、桜を愛でながら小一時間かけて歩くもよし。それぞれ楽しむ人々の姿が見受けられました。地元の人には「白雲山の桜」として長年愛され、祭りが開催されてはいるものの、韓国は日本のように桜の木の下で宴会をするという文化がなく、また地方でもあるせいか、それほど賑わいは感じられません。そのおかげで、私は日ごろの運動不足を解消するべく、桜吹雪の中、写真を撮りながらのんびりと堪能することができました。また、私が訪れた時間帯は、山裾の広場のようなところで地元の人達のがど自慢大会をしており、田園風景と歌声が相まって、郷愁を感じさせるひとときでした。

車での移動中、町の至る所に水車のオブジェがあり、水車を模した街灯が目につきました。





た。ハミョン郡は韓国で初めて水車が作られたことでも知られており、今でも山参（山岳地帯の奥地に自生する高麗人参）やリンゴなどの農産物の産地として有名です。水車のおかげで昔から農業が盛んであったことがうかがえます。

桜を思う存分楽しんだ後は、昼食に地元の名物「白熟（ペクスク）」という鶏料理をいただきました。韓国の鶏料理といえば「参鶏湯（サムゲタン）」を思い浮かべる方が多いと思います。サムゲタンは若鶏にもち米や高麗人参、ナツメなどを入れて煮込む、スープも楽しめる料理ですが、ペクスクは一羽を水から煮込み、大皿に盛って出される料理で、シンプルに鶏肉だけを粗塩でいただきます。韓国では鶏肉は滋養強壮によいとされ、日本の鰻のように、土用の丑の日に鶏肉を食べます。また、この時期の地元の特産品であるシイタケが入ったキノコ鍋も注文しました。



「白雲山の桜」は、その昔、在日韓国人の手によって植樹されたことが始まりだそうです。今回の旅はその子孫の方にお声がけをいただき、足を運んでみました。今年のソウルの桜は、雨の影響で例年以上にあっという間に散ってしまい、ちょっと物足りなく感じていたのですが、少し肌寒い澄んだ空気のおかげで、山間の桜も堪能することができ、とても楽しい一日でした。

### 筆者紹介



#### 柳鍾宇 (ユ ジョンウ)

GIP Korea代表弁理士。ソウル大学電気工学部を卒業。2009年弁理士登録。弁理士になる前は（株）LGディスプレイで設備購買及び技術営業の日本担当を務める。

前職の特許事務所では、最初は（株）サムスンの特許明細書作成／中間処理／外国出願などを行い、後に日本企業の韓国出願を担当。趣味はゴルフ。